

平成17年度決算審査

一般会計

町税

問 (近藤議員)

昭和61年からの滞納が約2億円ある。徴収が不可能なものは不良債権として適切に不納欠損・執行停止とする必要もあるのではないか。

答 (山口町長)

徴収不可能な場合、欠損の処理もするが、少し

ずつでも徴収の努力をす

問 (諸遊議員)

徴収率が上がっている。金額でいうとどのくらいの徴収か。

答 (野間税務課長)

徴収率は%で表示しており、金額での対比はプラスになっていないというところもあり、示すことができない。

交付税・公債費

問 (西山議員)

(1) 地方交付税が増えている。理由は。
(2) 起債償還のピークはいつ頃か。

答 (諸遊総務課長)

(1) 合併に関する措置額の増や合併算定替えによるもの。
(2) 平成20年がピークだが、新たな借り入れもあり変わってくる。

問 (秋田議員)

起債の額はいくらか。

答 (諸遊総務課長)

公債費は一般会計で毎年17億円程度の償還をしている。総額は126億円程度である。

問 (椎木議員)

金利が低くなる傾向で、借り換えなどは行っているか。

答 (諸遊総務課長)

契約をして借りているので、財政運営上なかなか借り換えには応じてもらえない。

問 (小原議員)

償還ピーク時の公債費率は。

答 (諸遊総務課長)

算定の仕組上、現状の中では困難である。

職員給与

問 (岩井議員)

職員の勤勉手当は一律か。頑張った人だけか。

答 (諸遊総務課長)

一律である。今後は人事評価制度の中で区別できる。

問 (川島議員)

(1) 職員互助会負担金と
(2) 職員厚生会補助金の性質は。

答 (諸遊総務課長)

(1) 全体的に福利厚生を行うための計上である。
(2) 町の条例の中にもある福利厚生に対する自主的な運営に補助するもの。

役場庁舎

問 (足立議員)

コンピューターの管理はケイズに任せている。業者を見直し節約を図る

決算審査特別委員会

委員長 荒松廣志 委員 全議員

決算認定の付帯意見

(1) 17年度決算の町税収入済額が14億9千万円であるのに対し、税や使用料等の未収金の総合計額は6億3千万円にもなる。

町長におかれては、未収金の徴収・回収は合併した今がチャンス、今しかないという気構えで、18年度末までに滞納対策室を中心にすべての未収金について精査を行いながら、町長以下全職員が一丸となって法的措置をとるなど実効ある措置を講じ、成果を出すこと。

また、保証人のある住宅新築資金や町営住宅使用料は、保証人にも請求すること。

(2) 国民健康保険診療所特別会計は経営内容の一層の健全化、明朗化が必要であり、早期に企業会計への移行を求める。

監査報告 (抜粋)

監査委員 椎木喜久男・尾古博文

指摘事項について

(1) 農業集落排水・公共下水道の接続率向上を強力に推進されたい。接続率をあげて、一般会計からの繰入金を押さえること。また、合併浄化槽の基本的考えをPRすること。

(2) 老朽化の進んだ施設については早めの修理を行い、安全対策を講じられたい。

(3) 未収対策を積極的に行うこと。特に今年度未収が急に増えた町営住宅家賃や軽自動車税は、原因を究明し未収が発生しないようにすること。また、住宅新築資金等の連帯保証人の書き換えなどが必要なものは早急に行うこと。

(4) 水道料金はできるだけ早く統一した料金を設定すること。また簡易水道は将来的展望にたって町水道に加入するよう対策を検討すること。

(5) 町道等の定期的な管理点検を行うこと。

(6) 旧大山のクリーンセンター(焼却場)の撤去対策を速やかに行うこと。